

毎日が、散歩の途中

やせる？ やせない？

文と絵 岡本杏子



杏

ちょっとした買い物や近所の用事には、自転車で行くのがお決まりだった。最寄りの駅まで二十分ほどと少し不便なところに住んでいるのと、自転車なら帰りの荷物が重くなくても平気だからだ。

ここ数カ月の、正確に言えば9月からの私はちょっと違う。ひたすら歩く。買い物も、駅との往復も、図書館への片道三分の道のりも、腕を振って大股でずんずん歩く。

なぜならば、「あの靴」を買ったから。履いて歩くだけで姿勢が良くなり、更には、やせる(！)というバランスシューズ「イーリートーン」。

これ、ただ履いているだけじゃ効果が無いわけ、それじゃ仕方がないから歩くか、と歩いているのです。

で、効果はあったのか。芝居の台本ならば、ここでト書きに(静かにうなだれる)と書きたいところだ。たった数カ月で効果を期待するの甘いのか、私の体には何ひとつ変化が現れない。今は何となく歩いたからという安心感が油断を助長し、食欲のフタを押さえ込めなかつたのが原因か。

この靴をめぐっては、少し前にアメリカで一問着あったらしい。「履いて歩くだけで通常より運動効果がある」という宣伝文句が、科学的根拠のない不当表示だと指摘されて、メーカー側は19億円も支払うことになったそう。このお金はアメリカ国内の消費者への返金に充てられ、日本の消費者には関係ないらしい。

でも、普通のウォーキングシューズとして履けば使えないこともないわけで、こういう夢のあるアイデア商品が、「科学的根拠がない」というだけで叩かれるのはどうかと思う。病気が治るとか言って変な食べ物や首飾りを高額で売りつけて儲けるような商売とは話が違ってくる。

皆さん、どうぞよいお年を笑顔で迎えてください。

岡本杏子(おかもと きょうこ)
神奈川県生まれ、世田谷区在住のライター。読書・旅行・人物の取材執筆を得意とする。今号に登場した靴は安全な革製で、足裏にクッション性があり、長時間歩いても疲れにくい。また、デザインもシンプルで、男女ともに履きやすい。

特別寄稿

交通費と食費は安いけれど

朝日新聞社 牧野愛博

韓国で生活して助かるのは、交通費と大衆食堂の値段だ。先日、家族で全羅北道全州に出かけた。KTX(韓国の新幹線)で片道2時間ぐらいの距離だが、親子3人乗って往復15万ウォン(約1万円)足らずだった。高速バスなら、遙かに安くなる。多分、5万ウォンもしないだろう。

ソウルの食堂は多種多様だが、安いキムチチゲやテンジャンチゲを5千ウォンぐらいで食べさせる店はまだまだたくさんある。

大変有り難い話なのだが、その一方で見えてくるのが格差の問題だ。交通費は元々安いとはいえず、KTXとバスでは数倍以上の差がある。食堂も高級レストランがあちこちにあつて、雰囲気だけで大衆店の数倍以上の料金を取る店がざらにある。ちょっとお茶を飲む場合でも、スターバックスのような海外チェーンのお店と昔から街中にある喫茶店では倍以上の値段差がある。

日本だってお店ごとに価格差はあるけれど、大抵の人は回数差こそあれ、色々なレストランを利用することができる。でも、韓国

の場合、地方の人を中心に「外食するなら大衆店で」「長距離移動は高速バスで」という人が結構いる。

日本ではかつて「1億総中流」という言葉があつたけれど、韓国にはまだこの言葉はない。貧富の格差は、60、70年代にわたって北朝鮮と激しい体制競争を繰り返してた朴正熙政権時代の負の遺産でもあり、体制競争に勝つため、韓国は大資本優遇による経済拡大路線を取つた。本来なら、「社会的な不均衡を是正しながら」といふ政策に落ち着くのだが、そんな悠長なことを言っていたら北朝鮮に負けてしまう。多少、強引でも他に選択肢がないという中で、米

最近、米韓自由貿易協定(FTA)の締結を巡り、ソウル市内でよく抗議集会が開かれていた。参加者の主張が、政府は「我々をだましているに違いない」という発言だ。日本でも政治不信はあるが、ここまではさすがに政府を悪人扱いすることは少ない。最近の裁判官までが韓国政府を批判している。

韓国は経済成長を遂げたといつても、少子高齢化社会がすぐそこまで迫っている。貧富の格差という重荷を背負った体で、果たして急増する社会福祉予算に耐えているのだろうか。さらに北朝鮮の問題まで抱えている。

2012年末は5年に1度の韓国大統領選だ。誰が当選するのかまだわからないが、社会の統合という重い課題を抱えた選挙になるのは間違いない。

町ネタ

東西南北

日中国交正常化40周年
東京国立博物館140周年
特別展「北京故宮博物院
200選」

2012年1月2日(月)～2012年2月19日(日)
東京国立博物館 平成館(上野公園)
05777-8600 (ハローダイヤル)
一般1500円

日中国交正常化40周年を迎える2012年、東京国立博物館は北京故宮博物院の名品展で幕を開けます。明時代の永楽帝(えいらい)の御製(ごせい)から清時代の宣統帝(せんとう)の御製(ごせい)まで24人の皇帝が居城とした紫禁城(じきんじょう)に由来する北京故宮博物院は、壮麗な宮殿建築と100万件を超えるコレクションを誇ります。この展覧会では、それらの貴重な文物から選りすぐりの名品200件が出品されます。二部で構成されるうち、第一部では、今まで門外不出とされていた宋・元時代の書画41件の展示をはじめ、宮廷絵画や文人画の名品、書のファン必見の宋・元・明時代の名品を一堂公開します。青銅器や玉器、陶磁器、漆器、瑠璃器、染織品といった多彩な分野の傑作も揃い、まさに北京故宮展の決定版といえる素晴らしいラインナップです。



故宮博物院

2012年1月2日(月)～2月5日(日)
江戸東京博物館 1階展示室(両国)
03626-9974(代表)
一般1300円

NHK大河ドラマ50年 特別展「平清盛」

50年目の節目を迎えるNHK大河ドラマは、初めて武士による世の中を作り上げた「時代への挑戦者」平清盛の生涯を描きます。今から900年前、貴族政治が衰退して混迷を深めた平安末期に、平清盛は瀬戸内の海賊を束ねて武家の棟梁となり、太政大臣にまで上りつめます。国を豊かにするために日宋貿易を行う一方、海に浮かぶ華麗な厳島神社を造営し、一族の繁栄を願って「平家納経」を奉納するなど、数多くの荘厳な宗教美術を生み出しました。この展覧会では世界遺産・



【保元合戦図屏風】江戸時代/馬の博物館蔵

厳島神社に伝えられる多数の至宝をはじめ、この時代を生きた人々の肖像画や書の跡、主要な源平合戦を描いた絵巻のほか、平安末期の文化を象徴する美術・工芸品などを展示し、平清盛が活躍した時代を紹介いたします。

ASA田端・ASA西ヶ原より 年末年始の配達についてお知らせします。

本年のご愛読まことにありがとうございます。とうございました。

来る年もよろしくご愛顧賜りますよう、お願い申し上げます。

■12月29日(水)～1月3日(月)まで、全ての夕刊はお休みとなります。

■1月1日元旦の朝刊は新聞のボリュームが通常の3倍以上あるため、配達の際に積み込むことのできる部数が少なくなってしまう場合があります。何度か積み足して配達致しますので、お届けが通常よりもかなり遅くなる場合もあります。また、冬季の早朝は路面凍結等によりスムーズな配達が出来ない場合もございます。ご迷惑をおかけいたしますが、どうぞご了承下さいませようお願い申し上げます。

■1月1日の新聞は、特集記事などページ数が多い為にポストに入らない場合がございます。その場合、いつもの投函場所以外にお届けする場合同じです。新聞を取られる際はご確認いただきますよう、よろしくお願致します。

■1月2日(月)は朝夕刊共に休刊です。